

# ネパールヒマラヤ メラピーク(6476m)通信

山の会 カランクルン 林 孝治

まいだ

2018年11月12日、9時30分、私は毎田悠紀子さん(吹田労山)、稲田もと子さん(加島ルーズ)とともにメラピーク(6476m)に登頂することができました。

午前3時30分、ハイキャンプ(5800m)をスタート。薄い空気の中、メラ氷河をヘッドランプで黙々と登ります。3時間ほどすると、陽が昇りました。寒さでジンジンしていた手も、サンライズの素晴らしさに何時しか忘れていきます。さらに3時間。苦しい登りが続きます。やっと、山頂のピークが見えてきて、ロープで安全を確保しながら、頂上に達しました。

快晴、微風の山頂からは、東遠方にカンチェンジュンガ、眼前にマカルー、ローツェ、エベレスト、チョーオユーと8000m峰5座の他、山野井夫妻が事故ったギャチュンカン(7952m)。「娘の山」プモリ(7161m)、「母の首飾り」アマダブラム(6812m)。それにバルンツェ(7129m)、チャムラン(7319m)…ヒマラヤ名峰の豪華ラインアップ。

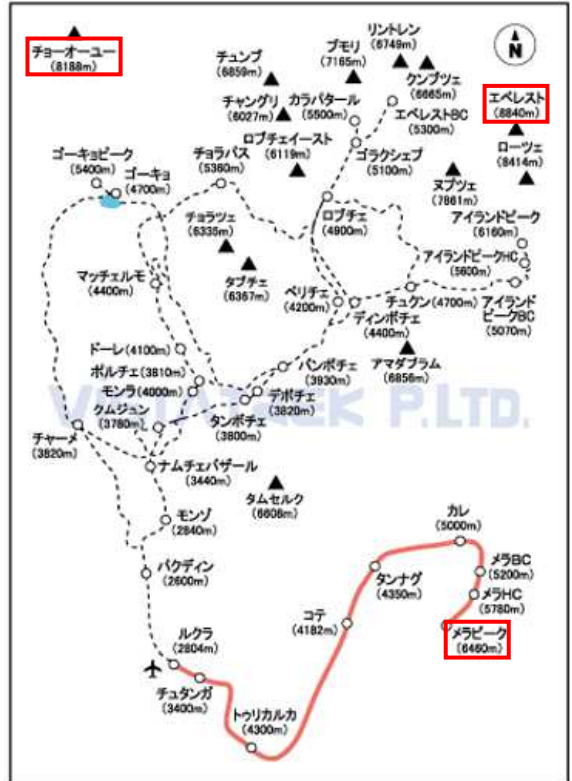
おそらくこれ以上の360度のヒマラヤ展望台はないでしょう。

稲田さんは、海外登山は初めて。毎田さんはキリマンジャロに登頂したことがあるものの、6000m峰は初めて。お二人とも、初めての6000m峰に不安を抱き、実際、空気が平地の半分以下の世界に苦しみながら、よく頑張って、頂上をゲットされました。

11月2日、カトマンズからエベレストのBCに至る、エベレスト街道の玄関、ルクラ(2860m)に飛びました。ルクラのテンジン・ヒラリー空港は、山の斜面を削って作られた、プロペラ双発20人乗りの飛行機が、ギリギリ離着陸できる空港で、離着陸のやり直しができない、世界で一番危険な空港と言われています。カトマンズを2時間遅れで飛び立った飛行機は、雲の合間を縫って、山肌スレスレに有視界飛行で飛び、接地警報が鳴っていました。いつもより手に汗握るフライトでしたが、無事にルクラに着いてメラピークBCへのトレッキングが始まりました。

ほとんどのトレッカーはエベレストのある北の方向に向かいますが、私たちはルクラの東側に聳える屏風のような5000m台の山稜を越えるため南東に進み、一番低いチャットラ峠(4600m)を越えた後、進路を北東に転じてメラ氷河から流れ来るピンククーラの谷底(3600m)まで下り、川に沿ってBCを目指すのです。

このチャットラ峠(4600m)はルクラを出発した翌日には通過できる位置にあるため、多くの人は先を急ぐあまり、この峠で高度障害が出て、それを引きずったまま、BCに向かい、不調で登頂できないことが多いのです。この峠越えが、メラピーク登山の核心部であるといえます。そのため、出発までに日本国内で、しっかりと4000mラインの高度順応をしておくことが必要で、また、峠の手前でも2泊以上をし



て、高度順応をすることが重要だと思います。

でも、ルクラから 2 時間あまりのチュタンガのロッジはルート中、一番粗末でした。今回のメラピーク登山は、私にとっては 4 回目、10 年ぶりで、今までメラピーク登山では BC に近づくほど、ロッジも少なくなり、だんだん粗末なロッジになっていくのですが、今回は、奥に行くほど、立派で快適なロッジができていて、そのメラピーク BC へのルートの変貌ぶりに度肝を抜かれました。

例えば、最奥のカーレ(4900m)という BC となる場所にある、ヘリポートを備えた Refuge Mera(メラ避難小屋)という名前のロッジは、ソーラーで充電していて、各部屋に電灯があるのはもちろん、各部屋にコンセントが付いていて、電気毛布がセットされています。携帯は通じませんが、Wi-Fi を経由してインターネットに接続ができます。また、ダイニング(食堂)にはベーカリーで焼かれたパンやアップルパイが並び、本格的なエスプレッソが楽しめます。メニューには、ステーキやビーフストロガノフなど街と変わらない料理が並んでいます。

また、このロッジにはショップを併設していて、ソックスや手袋のような小物を販売している他、ピッケル、アイゼン、ハーネスなどのクライミングギアや登山ウエアや登山靴までレンタルしていました。

メラピークに登るには、BC から出発して、5800m 付近の岩峰の狭い岩棚にハイキャンプを設け、そこからアタックをします。そのために、日本からテントなど幕営用具や、炊事用具などを持ちこみ、食料や燃料をカトマンズやルクラで調達して、ポーターに運び上げてもらっています。ところが、今では、ハイキャンプには、前もって分厚いマットレスが敷かれたテントが設営されていて、宿泊と暖かい食事も提供するサービスがありました。テントは 15 張り位。30 人位が泊れます。常設のトイレもできていました。日本のホテル並みの料金ですが、それでも、寝袋だけをもって上がればよく、ハイキャンプのために装備を持ちこんだり、ポーターさんを雇ったりしなくて済むのでかえって安上がりだと思います。

このような驚くべき変貌を遂げたのは、ゾッキョ(牛とヤクの交配種)が通れない狭くて急なチャットラ峠に変わり、ルクラからジリのほうに 2 日ほど下って、ピンクコーラ下流に出て、それを遡るルートが開放され整備された結果、ゾッキョによる物資の輸送も格段に増え、トレッカーも多くなったからだそうです。

11 月 11 日、ハイキャンプに向けて出発しました。驚いたことに山自体も変わっていました。

BC からは、土とガレの道を 2 時間程登り、メラ氷河の末端から氷河に上がってひたすら氷河を登り詰めます。以前は、氷河に上がる場所は、アイゼンが無くても上がれ、そのままハイキャンプまで行けたのですが、今は、急なツルツルの氷の斜面になっていて、ちょっとしたミスをすれば、氷の滑り台を大ジャンプしてしまいます。とても恐ろしいルートになっていました。ポーター達も BC で借りたチェーンアイゼンを履いてハイキャンプまで登っていました。

また、ハイキャンプの途中にあるメラ・ラ(峠)からはバルン谷に抜ける道があるのですが、そこに降りると思しき地点もすっかり雪に覆われ、とても下りられそうになく、以前通ったバルン谷に下る道も付け変わってしまったようです。

頂上ドームも以前と形が違うのです。以前は、左のほうから、急な斜面をトップがダブルアックスで登ってロープをフィックス。後続はアッセンダーで登り、頂上に達しました。下りは懸垂下降で取付きに戻っていました。そんなルートを想定して国内でもトレーニングをしてきました。ところが、今では正面からコンテで上り下りできるのです。山の形まで変わっていました。山自体が雪で太ってしまったようです。

これらは、おそらく温暖化による多雨が原因ではないかと思います。ヒマラヤではモンスーンの時期(6 月～9 月)に雪が涵養されます。それが、その期間が延び、雨量が増加。5500m 位までは氷化し、それ以上では積雪となって、山の形状が変わってしまったのではないのでしょうか？

毎年、ネパールに来て、登山やトレッキングをしています。これほどの変化を感じたことはありません。十年の間の急激な変化に戸惑いを覚えたメラピーク登山でした。